

SYMPHONY

 TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA
Lorenzo VIOTTI, Music Director

80th
ANNIVERSARY

NO. 739

SUN. 26TH APRIL

SUBSCRIPTION CONCERT

2026

APRIL

4

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。
※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

東京交響楽団創立八十周年を迎えて

東京交響楽団はこのたび創立八十周年を迎えました。これもひとえに演奏会をお聴きくださる皆様、ご支援をいただき皆様のお陰と存じ、改めて厚く御礼を申し上げます。長い歩みの中には存続の危ぶまれる時代もございましたが、初代音楽監督秋山和慶先生の情熱と、音楽を愛する皆様のご支援により、苦難の時代を克服することができました。秋山先生なくして今日の東京交響楽団はございません。ユベール・スダーン第二代音楽監督には、厳しくも温かい指導により、音楽の伝統の深い意味をお授けいただき、技量の向上に大きな力を与えていただきました。そしてジョナサン・ノット第三代音楽監督には深い共感の中に、緻密でときに刺激的なまでの指揮により楽団の飛躍的な成長を実現していただいたと思っております。この度、新たにロレンツォ・ヴィオッティを第四代音楽監督に迎え、私共は新たな歩みをスタートいたします。当楽団を指揮して日本デビューされたご縁や、客演で結んだ強い絆でヴィオッティ氏と魅力的な演奏活動に邁進して参ります。皆様の末長いご声援とご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

公益財団法人東京交響楽団 理事長

岡崎 哲也

OKAZAKI Tetsuya

4/26

SUN

第739回 定期演奏会

2026年4月26日(日) 14:00 サントリーホール

Subscription Concert No.739

Sun. 26th April 2026, 14:00 Suntory Hall

パブロ・エラス=カサド [指揮]
小林 亨成 [コンサートマスター]

Pablo HERAS-CASADO, Conductor
KOBAYASHI Issey, Concertmaster

シューベルト: 交響曲 第7番 口短調 D759
[未完成] (25')

SCHUBERT: Symphony No.7 in B minor
D759 "Unfinished" (25')

I. アレグロ・モデラート
II. アンダンテ・コン・モート

I. Allegro moderato
II. Andante con moto

休憩 (20')

Intermission (20')

ブルックナー: 交響曲 第6番 イ長調
WAB106 (ノヴァーク版) (55')

BRUCKNER: Symphony No.6 in A major
WAB106 (Novak edition) (55')

I. マエストーソ
II. アダージョ: 非常に厳かに
III. スケルツォ: 速くなく - トリオ: ゆっくりと
IV. フィナーレ: 動きをもって、しかし速すぎず

I. Maestoso
II. Adagio: Sehr feierlich
III. Scherzo: Nicht schnell
IV. Finale: Bewegt, doch nicht zu schnell

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.6をご覧ください



アンケート
ご協力をお願い



©Javier Salas

Pablo HERAS- CASADO

Conductor

パブロ・
エラス=カサド

[指揮]

古典から現代音楽まで幅広いレパートリーを自在に操る、今もっとも注目される指揮者の一人。ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、バイエルン放送響、ロイヤル・コンサートヘボウ管、シカゴ響、ロサンゼルス・フィル、フィルハーモニア管、ミュンヘン・フィル、グリーヴランド管など主要オーケストラへ定期的に客演を重ねている。2025/26シーズンはモンテヴェルディ合唱団・管弦楽団、バンベルク響、バイエルン州立管、東京交響楽団に客演する。

オペラでも高く評価され、2023年のパイロイト音楽祭での《パルジファル》成功以降、同作への再演(2026)や新作《ニーベルングの指環》が2028年に予定されている。ウィーン国立歌劇場へも定期的に招かれ、2025/26には《皇帝ティートの慈悲》《ル・グラン・マカーブル》などを指揮。

近年ではスペイン国立音楽賞2025、2025年最優秀指揮者賞 (Oper! Awards)、フランス芸術文化勲章など多くの受賞歴がある。

Pablo Heras-Casado is one of the most sought-after and versatile conductors worldwide, impressing with his stylistic range from historically informed performance to contemporary music.

He works regularly with leading orchestras including Philharmonia Orchestra, Orchestre Philharmonique de Radio France, Munich Philharmonic, Vienna Symphony and Cleveland Orchestra. Other collaborations include Berlin and Vienna philharmonics, Bavarian Radio Symphony, Royal Concertgebouw, Staatskapelle Dresden, Orchestre de Paris, London Symphony, Chicago Symphony and Los Angeles Philharmonic. In 2025/26, Heras-Casado conducts Monteverdi Choir and Orchestras, Bamberger Symphoniker, Bayerisches Staatsorchester, and Tokyo Symphony Orchestra.

In opera, Heras-Casado has become a leading Wagner conductor since his acclaimed Parsifal debut at Bayreuth in 2023 and subsequent returns. Parsifal is scheduled again for 2026, followed by a new Ring production in 2028. He is a regular guest at the Wiener Staatsoper, where he returns in 2025/26 for La clemenza di Tito, Le Grand Macabre, and the Ring cycle. He launched a new Ring at Opéra National de Paris with Das Rheingold in January 2025 and returns this season for Die Walküre and Siegfried.

Heras-Casado's extensive discography features releases with Harmonia Mundi and Deutsche Grammophon. Highlights of his numerous awards include Spain's Premio Nacional de Música 2025, Best Conductor 2025 (Oper! Awards) and Chevalier de l'ordre des Arts et des Lettres.

フランツ・シューベルト(1797~1828)

交響曲 第7番 口短調 D759「未完成」

ウィーン市内に建つ帝室の寄宿制学校。ちょっと不愛想なその校舎で、11歳になったシューベルトはバランスのよい教育を受け、聖歌隊でソプラノを響かせた。15歳で母校を巣立った翌年から、ほぼ1年に1作の割合で生みだされたのが、6番までの初期交響曲である。支援者の邸宅に30人ほどの仲間が集まって演奏し、訪れる人の耳を愉ませていた。

こうした軽いスタイルに別れを告げたのが、20歳のころ。1818~21年に手がけられた3つの断片には、それ以前も以後も試みられていない実験が満載だ(D615, D708A, D729)。この流れの頂点にくるのが、1822年の《未完成交響曲》(D759)に他ならない。口短調は、大先輩ベートーヴェンが「暗い」と言って敬遠した調。どこにも響いたことのない、心を震撼させるシンフォニーへ――。

伝承は今なお謎に満ちている。ピアノ・スケッチをふまえて、第2楽章までの自筆スコアが仕上げられたが、第3楽章に入ってまもなく筆は止まる。完成された部分の楽譜は、ウィーン南西にあるシュタイアーマルク音楽協会の監督を務めていた友人アンゼルム・ヒュッテンプレナーの手にわたった。そのいきさつは不明のままだが、スコアには上演をめざしたヒュッテンプレナーの書き込みが散見される。これは実現にいたらず、初演はそれから43年を待たなくてはならなかった。

第1楽章は“闇”の世界。まだ一般的でなかった5弦コントラバスの最低音に落ちてゆく瞬間や、トロンボーンの炸裂(いずれもちょうど真ん中あたり)は、半世紀後のワーグナーやチャイコフスキーかと思うほどの立体感とスリル。歌う第2主題も、すぐに“葬送”リズムの強打で寸断される。マーラーにつうじる痛切なアイロニーだ。

第2楽章は“光”の世界。ホルンの冒頭テーマは、5年後の歌曲集《冬の旅》で束の間そよぐ「菩提樹」の慰めとそっくり。真ん中で先行楽章のトラウマが還ってくる。その引きずるような弦楽伴奏のリズムは、本作でいちばん重要なモチーフである。幕切れは、シューベルトの文章と響きあっている。「永遠なる至福の世界が、一挙に、まるで瞬間のうちに押しよせてくるのを僕は感じた……」。自筆譜成立の4か月ほど前に草されたメルヒェンである(1822年7月3日)。

堀 朋平 Text by HORI Tomohei

作曲:1822年10月30日完成(おそらくヒュッテンプレナーによる自筆譜表紙への書き込みから)

初演:1865年12月17日ヨハン・ヘルベック指揮、ウィーン楽友協会

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

アントン・ブルックナー(1824~1896)

交響曲 第6番 イ長調 WAB106(ノヴァーク版)

《交響曲第6番》(1881年)は、アントン・ブルックナー(1824~1896)の交響曲創作史のなかでも異色の作品である。彼の交響曲は、記念碑的な性格を持った長大な終楽章で締めくくられるパターンが多いが、《第6番》の場合、比重が置かれているのはむしろ第1、2楽章のほうで、終楽章は比較的コンパクトにまとまっている。ブルックナーは、1876年に《交響曲第5番》を完成させたあと、しばらくは旧作の大規模な改訂作業に力を注いでいた。また、本作に着手する直前の1879年には、唯一の本格的な室内楽曲である《弦楽五重奏曲》を書き上げている。これまでとは異なる方向に踏み出した背景には、こうした一連の経験があったのだろう。

さらに、ブルックナーの大半の交響曲に付いて回る異稿や異版の問題と無縁なものも、本作の特徴だ。皮肉なことに、それは当時この曲が不遇だったことの証でもある。ブルックナーの生前に《第6番》が演奏されたのは、1883年2月11日の一度きり。その時も、取り上げられたのは第2楽章と第3楽章のみで、大きな反響も呼ぶことも、厳しい批判を集めることもなかった。つまり、ブルックナーが改訂を決意するような機会すらなかったのである。全曲初演が実現したのも楽譜が出版されたのも、彼の死後、1899年になってからのことだった。

第1楽章(マエストーソ) 三つの主題によるソナタ形式。標語どおり、威風堂々とした行進曲風の主題ではじまる。それがいったん収束し、メロディアスな第2主題が繰り広げられるも、第3主題とともに再び金管楽器が響きわたる。

第2楽章(アダージョ:非常に厳かに) 葬送音楽風の緩徐楽章。弦楽器群が奏でる悲痛な主題に、オーボエの嘆きの歌が重ねられる。

第3楽章(スケルツォ:速くなく-トリオ:ゆっくりと) 規則的に打ち込まれるリズムが印象的な、力強いスケルツォ。小ぢんまりとしたトリオでは、断片的な楽想がモザイク状に連なってゆく。

第4楽章(終曲:動きをもって、しかし速すぎず) さまようような旋律ではじまるが、金管楽器のリズムをきっかけに勝利の響きが解き放たれる。コンパクトな構成ながらも、最後は第1楽章冒頭の主題の回帰とともに輝かしいクライマックスの瞬間が訪れる。

池上健一郎 Text by IKEGAMI Ken'ichiro

作曲:1879~1881年

初演:1883年2月11日、ウィーン(第2、3楽章のみ)ヴィルヘルム・ヤーン指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
1899年2月26日、ウィーン(全楽章[短縮、変更あり])
グスタフ・マーラー指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、弦5部

幅広いレパートリーを
多様なスタイルで演奏し
世界を席卷する

人気指揮者

パブロ・エラス=カサド

文 宮嶋極(音楽ジャーナリスト)

1977年にスペイン・グラナダで生まれたパブロ・エラス=カサドは今、世界中の名門オーケストラから引っ張りだこの人気指揮者である。これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、バイエルン放送響、シカゴ響など欧米の名門オケを総なめにする勢いで客演し成功を収めている。日本においてはNHK交響楽団に複数回客演している。オペラの世界でもバイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、そしてマドリードのテアトロ・レアルなどで、多彩なプロジェクトに取り組み注目を集めている。

エラス=カサドの魅力とは何か。それは古典から現代音楽に至る幅広いレパートリーとその作品に適合する多彩な演奏様

式を巧みに使い分ける引き出しの多さにある。エラス=カサドは英国における古楽演奏の権威であるクリストファー・ホグウッドらに師事し、キャリアの初期から作曲家在世当時の楽器や演奏法を再現するピリオド(時代)・スタイルに積極的に取り組んできた。その一方で、現代音楽の分野でも2007年にルツェルン音楽祭指揮アカデミーに参加しピエール・ブーレーズから高く評価されたことで、世界的な人気指揮者への階段を上り始めることとなった。

また、オペラの分野においても目覚ましい活躍が続いている。中でも最近ではワーグナー指揮者としての評価を確立しつつある。2018年からテアトロ・レアルで「ニーベルングの指環」ツィクルスを4シーズンにわたって指揮し成功を収めたのに続き、ワーグナー作品上演の総本山といわれるドイ

ツ・バイロイト音楽祭に2023年に「パルジファル」新制作(ジェイ・シャイブ演出)の指揮者に抜擢され高い評価を得た。「パルジファル」の指揮は24年以降の再演でも続き、加えて25年には音楽祭の開幕を飾る野外コンサート「フェストシュピール・オープンエア」も担当するなど「バイロイトの顔」のひとりに数えられる存在になっている。

筆者は25年の「パルジファル」再演取材したが、観客・聴衆はもとよりオペや合唱団、運営サイドからも評価を得ていることが窺えた。エラス=カサドは「パルジファル」の複雑な和声が縦横に重なり合う声部を「見通し、よく整理し、クリアに聴かせる音楽作りでこの作品に内在していた室内楽にも通じる魅力に光を当ててみせた。第1幕(100分)、第2幕(65分)、第3幕(75分)とやや速めのテンポ設定ながら、タツプリと聴かせるべきところはテンポを落としてメリハリを付けるなど、全体を精密にコントロールしていた。世界的なワーグナー歌手が一堂に会する同音楽祭だが、指揮者のグリッパが弱いと歌手が自分の声を誇示するために長い音符を必要以上に引っ張るなどして、ピット内のオペの演奏との間に齟齬(そご)をきたすことがあるが、エラス=カサドの指揮ではそうした場面はいっさいなく、歌手、合唱、オーケストラが混然一体となって音楽作りを行った。それは観客・聴衆の一部がVRグラスを装着して鑑賞するシャイブ演出の「パルジファル」のモダンなコンセプトともうまくマッチ。ワーグナーの音楽への強いこだわりを持つバイロイトの聴衆からも確固たる支持を得た。

バイロイト以外でもミラノ・スカラ座でのモーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」、ウィーン

国立歌劇場とウィーン・コンツェントウス・ムジクスとの共同制作として、モンテヴェルディのオペラ三部作「オルフェオ」、「ウリッセの帰還」、「ポッペアの戴冠」なども注目を集めた。さらに、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場、エクス=アン=プロヴァンス音楽祭、バーデン=バーデン=イースター音楽祭にも招へいされるなどオペラにおける活動も多岐にわたっている。

管弦楽の分野では、モダン・オーケストラへの数々の客演に並行して、フライブルク・バロック・オーケストラなどの古楽オペとロマン派作品をピリオド楽器で演奏する取り組みを行っている。因習的な演奏法を排しゼロ・ベースで譜面に向き合うことで新鮮な響きが創出され作品の新たな魅力を引き出すことに成功している。

今回、東京交響楽団とはシューベルトの交響曲第7番「未完成」とブルックナーの交響曲第6番というプログラムが予定されている。東響はジョナサン・ノット音楽監督時代に古典から現代音楽までの広いレパートリーを多様な様式で演奏し多くの名演を披露してきた。その意味ではエラス=カサドの目指す方向性と東響の近年の活動での共通項は多い。エラス=カサドはアニメ・エテルナとともにブルックナーの交響曲を演奏・録音している。その斬新ともいえる響きはブルックナーの作品の本質に別角度から迫る演奏として話題となった。今回、モダン・オーケストラである東響との共演で、どのようなシューベルトやブルックナー像が描き出されるのか、楽しみである。

東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(4月1日現在、五十音順)。

ご
芳
名
(敬称略)

法
人
会
員

●プラチナ会員

*株式会社ティーワイリミテッド 株式会社ドワンゴ
株式会社フェイス

●ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人 環境ステーション株式会社
株式会社伊藤総合事務所 株式会社すかいらくホールディングス
株式会社イノアックコーポレーション 株式会社日本財託
株式会社インサイド・アウト 株式会社パソナグループ
株式会社エイチ・アイ・エス 株式会社雅玖仁

●ゴールド会員

株式会社青山メインランド 西松建設株式会社
株式会社あ佳音 株式会社NIPPO
オリエンタル酵母工業株式会社 株式会社日本M&Aセンター
サントリーホールディングス株式会社 ヒノキ新薬株式会社
社会医療法人財団石心会 司法書士法人ふなざき総合事務所
玉川学園・玉川大学 ミヨシ油脂株式会社
中外製薬株式会社 ヤマザキビスケット株式会社
株式会社TFDコーポレーション *ヤマト科学グループホールディングス
株式会社鉄鋼ビルディング 税理士法人WATANABE
株式会社トーシンパートナーズ

●シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト 月島食品工業株式会社
公益財団法人青梅佐藤財団 東京鐵鋼株式会社
川崎信用金庫 司法書士法人村田事務所
松竹株式会社

●ブロンズ会員

アーティスト ニッシンエレクトロ株式会社
ホールディングス株式会社 富士フィルムビジネス
*株式会社ヴァリューズ イノベーションジャパン株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー 神奈川支社
株式会社シグマコミュニケーションズ 前山歯科医院
新宿村スタジオ 株式会社LALLヒューマン
有限会社青史堂印刷 ホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社 山崎製パン株式会社

匿名3社

東京交響楽団サポート会員制度

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。

そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円～29,999円

フレンズ3

年額3万円～49,999円

フレンズ5

年額5万円～99,999円

サークル10

年額10万円～249,999円

サークル25

年額25万円～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

会員特典	法人会員	サークル 会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}	○	○	○	○	○

^{*1}一部対象外もございます。^{*2}東京交響楽団の主催公演およびミュウザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合：「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分³について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合：「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。³

³但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご還贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

世界で磨かれ、オーケストラと歩み続けるヴァイオリニスト

景山 昌太郎

KAGEYAMA Shotaro

[第1コンサートマスター]2025年9月入団

趣味:サッカー観戦、読書(小説)、日本酒



©Nihogam

ヴァイオリン、オーケストラとの出会い

両親の影響で幼い頃から音楽に囲まれて育ち、4歳のときに自らヴァイオリンを習いたいと言ったのが始まりです。ヴァイオリニストである父のもとで基礎を学び、中学1年生で入団したジュニア・フィルハーモニック・オーケストラで、オーケストラの魅力にすっかりハマりました。

大学生レベルの作品に挑戦できる環境の中、多くの作品に取り組み、同世代や先輩方との切磋琢磨する環境が演奏を続ける大きな支えとなりました。

東京藝術大学進学後は室内楽を学び、オーケストラとは異なる緻密な対話と音楽づくりの奥深さを実感。ジュニアオーケストラで培った音楽的素養に、大学での高度な技術と価値観が重なり、現在の基盤が形づくられたと感じています。

繋がれていった縁がある

大学卒業前、ジュニアオーケストラで指揮をされていたキンボー・イシイ氏にお声がけいただき、東ドイツのマクデブルク・フィルのコンサートマスター・オーディションを受験しました。結果は不合格でしたが、数か月後に再びご連絡をいただき、第2ヴァイオリン副首席として迎えていただくことになりました。

ほぼ独学でドイツ語を習得しましたが、言葉が理解できるようになるにつれ、作品への理解も一層深まり、音楽との結びつきを強く実感しました。その後、西ドイツのハーゲン・フィルにも所属。多様な背景を持つ奏者と共演する中で、同じドイツでも東西で音楽観や求められる音色に違いがあることを学びました。こうした14年間の経験を通して、多様性への理解と柔軟な対応力を培うことができたと感じています。

第1コンサートマスターとして意識していること

ゲスト出演した当初から、東京交響楽団は室内乐的な気質を持つオーケストラだと感じていました。指揮者を尊重しながらも、奏者一人ひとりが主体的に、より高みを目指そうとする意識の強いオーケストラです。

その中でコンサートマスターは、多様な意見に耳を傾けつつ、演奏や所作で方向性を示し、最終的には自ら判断する責任を担う立場だと考えています。

2026/27シーズン、 ロレンツォ・ヴィオットティの 音楽監督就任にあたり

東響がどのように進化していくのか、私自身も試行錯誤を重ねながら、第1コンサートマスターとして音楽監督への理解を深め、楽団にとって前向きな変化を積み重ねていきたいと考えています。

なかでも5/16日(土)の第740回定期演奏会は就任披露公演です。若きマエストロが描くベートーヴェンとマーラーに、どうぞご期待ください。



幼少期、ヴァイオリニストの父から教わる様子
インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

#ニコ響 7年目、2026/27シーズン配信ラインナップ

日本最大級のライブ配信サービス「ニコニコ生放送」で、2026年4月～2027年3月に生中継される東京交響楽団演奏会の配信ラインナップを発表しました。

東京交響楽団とニコニコの取り組みは、2020年3月、オーケストラ史上初となる無観客コンサートの生中継からスタートしました。新たなオーケストラ鑑賞のかたちとして注目を集め、大きな反響を得たことから、同年6月にプロオーケストラとして初となるニコニコチャンネル「ニコニコ東京交響楽団」を開設。7年目となる今シーズンも、ネット回線などに影響されない高音質生配信による臨場感、そして中継画面に流れる視聴者のコメントがもたらす一体感をお届けします。

(ニコニコ東京交響楽団)



生放送は会員登録なしで無料視聴可能です。詳細は「ニコニコ東京交響楽団」をご覧ください。

配信スケジュール

2026年4月25日(土)

14:00開演 **名曲全集 第216回**

指揮=バプロ・エラス=カサド
・シューベルト:交響曲 第7番「未完成」
・ブルックナー:交響曲 第6番

2026年10月10日(土)

14:00開演 **名曲全集第221回**

指揮=ロレンツォ・ヴィオッティ
・J.S.バッハ(齋藤秀雄編):シャコンヌ
・ショスタコーヴィチ:交響曲 第10番

2026年5月17日(日)

14:00開演 **名曲全集 第217回**

指揮=ロレンツォ・ヴィオッティ
(東京交響楽団 第4代音楽監督)
・ベートーヴェン:交響曲 第1番
・マーラー:交響曲 第1番「巨人」

2026年11月28日(土)

18:00開演 **第747回定期演奏会**

指揮=ユベール・スターン (ユベール・スターン80歳記念)
ソプラノ=森麻季
アルト=金子美香
テノール=福井敬
バス=与那城敬
合唱=東響コーラス
合唱指揮=根本卓也
・ブルックナー:テ・デウム
・モーツァルト:レクイエム

2026年7月18日(土)

18:00開演 **第743回定期演奏会**

指揮=ロレンツォ・ヴィオッティ
・ブラームス:交響曲 第3番
・ドヴォルザーク:交響曲 第7番

2026年12月13日(日)

14:00開演 **川崎定期演奏会第108回**

指揮=下野竜也
チェロ=宮田大
・三善晃:祝典序曲
・芥川也寸志:チェロとオーケストラのためのコンチェルト・オスティナート
・ブルックナー:交響曲 第8番

2026年9月19日(土)

18:00開演 **第745回定期演奏会**

指揮=ロレンツォ・ヴィオッティ
テノール(ヨハネ)=マキシミアン・シュミット
バス(神の声)=フランツ=ヨゼフ・ゼーリヒ
ソプラノ=クリスティーナ・ランツハマー
メゾソプラノ=カトリオーナ・モリソン
テノール=パトリック・グラール
バスバリトン=クレシミル・ストラジャナツツ
オルガン=大木麻理
合唱=東響コーラス
合唱指揮=富平恭平

《東京交響楽団創立80周年記念》
・シュミット:オラトリオ「7つの封印の書」

2027年2月28日(日)

14:00開演 **川崎定期演奏会第109回**

指揮=小林資典
・シューベルト:
交響曲 第7番「未完成」
・ベートーヴェン:
交響曲 第5番「運命」
・ドヴォルザーク:
交響曲 第9番「新世界より」



東京交響楽団

ミュンヘン・ザッセルホーフェン

シンフォニーホールから

ライブ配信

5/17 SUN 14:00開演

NEWS & TOPICS

正団員

2026年4月1日付

吉田みのり YOSHIDA Minori [第2ヴァイオリン奏者]

桐朋学園大学卒業。渡辺亜美、岩澤麻子、篠崎功子の各氏に師事。大阪国際音楽コンクール第2位、全日本学生音楽コンクール第3位など多数受賞。サントリーホール室内楽アカデミー、桐朋オーケストラ・アカデミー修了。PACオーケストラ2023-24年度レジデントプレイヤー。



©N. Ikegami

新入団

2026年3月24日付

知久翔

CHIKU Kakeru
[フルート首席奏者]

2026年4月1日付

津守隆宏

TSUMORI Takahiro
[ホルン奏者]

早野舞花

HAYANO Maika
[トランペット奏者]

退団

2026年3月31日付

最上峰行

MOGAMI Takayuki

[オーボエ&イングリッシュホルン奏者]

2009年に入団し、17年にわたり活躍いたしました。



©N. Ikegami

正事務局員

2026年3月17日付

山本未央子

YAMAMOTO Mioko
[事務局 広報本部]

新入団

2026年4月1日付

荒井宣之

ARAI Noriyuki
[事務局 事務室長]

NEXT PROGRAM

新音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティ
いよいよ登場!!

《音楽監督就任披露公演第1弾》

5/16
SAT

第740回 定期演奏会

18:00 サントリーホール

指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ

ベートーヴェン:交響曲 第1番

マーラー:交響曲 第1番「巨人」

S¥9,500 A¥7,500 B¥6,500 C¥4,500 P¥3,500

《音楽監督就任披露公演第2弾》

5/23
SAT

川崎定期演奏会 第105回

14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

5/24
SUN

特別演奏会

《ロレンツォ・ヴィオッティ 音楽監督就任披露》

14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ

ソプラノ:マリーナ・レベカ

合唱:東響コーラス 合唱指揮:河原哲也

R.シュトラウス:4つの最後の歌

ラヴェル:バレエ音楽

「ダフニスとクロエ」

S¥13,500 A¥10,500 B¥8,500 C¥6,500(両公演とも)



©Jan W. Etem Kaldenbach



©Tatyana Vlasova

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511(平日10:00 ~ 18:00 /土日祝休)



©T.Tairadate



80 ANNIVERSARY 東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「子ども定期演奏会」[0歳からのオーケストラ]も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45台カメラを用いた《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、第3代音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウスコンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スダーン、名譽客演指揮者に大友直人を擁する。

2026年4月よりロレンツォ・ヴィオッティが第4代音楽監督に就任。

The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine. Der Rosenkavalier in Concert Style (2024) concluded the finale of R. Strauss project with a great acclaim. They won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 83 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

Lorenzo Viotti becomes 4th Music Director in April 2026.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト[T.S.O MUSIC &
VIDEO SUBSCRIPTION]
1か月550円(税込)



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BRIDGE

Symphony

Symphony 2026年(令和8年)4月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス>

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮した
ユニバーサル・デザインフォントを使用しております。